

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701039		
法人名	医療法人社団 問端会		
事業所名	グループホームといはた あせび棟		
所在地	熊本県阿蘇市内牧117番地		
自己評価作成日	平成29年9月27日	評価結果市町村受理日	平成29年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成29年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

震災後の入居者様より「今まで入っていた温泉に又入りたい」という声が多く聞かれ、再度温泉を引きかけ流しにて入浴を提供している。毎月、季節折々の行事を計画している。時に地域へ出向き支援している。余暇ではゴルフや縫い物など趣味を楽しめるように支援している。毎月、御家族宛に手紙をお送りしホームでの生活状況や個別ケアの状況、行事の状況など記載し情報提供を行っている。又、面会時にも近況をお伝えしている。主治医との連携を行い、健康面や医療面において不安なく安心した生活を提供している。職員は毎月、ホーム内勉強会や外部の研修会に参加しスキルアップを図っている。又、今年より職員の考査を行っておりスキルアップ、質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街中に、母体医院と併設して建てられた民家風のホームである。行事・研修(勉強会)・防災等の年間計画が立てられ、それぞれに担当職員が決められており、それに基づいて利用者18名を支援している。2か月に一度開催される運営推進会議も年間テーマを各委員に周知しているため、参加者が多く、活発な意見が出されて運営に活かされている。今年度は、「個別ケア」に力を入れており、ホームからグランドゴルフに出かけたり、居室で縫い物を楽しむ利用者もあり、その結果、「何もする事が無い日」は無く、利用者は落ち着いた暮らしが出来ている。職員は利用者の活動に関わることで会話も増え、一緒に暮らしを楽しんでいる、アットホームな施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも理念が見れるように、各箇所毎に理念を掲示しており、理念を思い出し業務にあたることで実践につなげている。	今年度は「個別ケア」に力を入れており、理念にある利用者の「思いや意思」を引き出した上で対応する事により、「穏やかで安らぎのある暮らし」の提供に努めている。母体が医院であり、医療連携が確保されている事で、「健康に不安のない安全な暮らし」をサポートしている。また、「地域との自然な交流」も行われており、理念の共有と実践への努力が伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の茶摘やクリスマス会、校区の運動会や夏祭りなどに参加したり、入居者様と買物へ出かけたりし交流を図っている。	地域清掃・地元商店からの食材やおむつ等の購入・読み聞かせボランティアの受け入れ等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。又、老人会加入の利用者もあり、会の旅行に参加したり、保育園の夏祭りにも出かけている。施設で開催される「音の倉庫」でのライブには、多くの地域住民も訪れ、利用者・家族との交流が自然に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会、中学生の職場体験や高校生の福祉実習の際に話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事活動報告やテーマを決めて意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、行政・民生委員・保育園長・地域住民・家族・利用者代表等から構成され、2か月に一度開催されている。特に民生委員は、各地域ごとに参加を得ており、活発な意見交換の場となっている。ホームの年間計画と合わせて、会議で討議・検討されるテーマを各委員に事前に配布しており、意見や提言を得やすくするための工夫も見られた。	会議で活発な意見交換が行われており、その貴重な意見や提言をサービス向上に活かしていくため、もう少し詳しく議事録に残しておくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	細かな事でも市担当者と連絡を密に取り、事業所の実情を伝え情報共有を行っている。	運営推進会議には毎回、市からの出席があり、必要に応じて「介護保険制度改正の概要」の説明等、情報提供・情報交換が行われている。又、日頃から連絡を密にし、「介護相談員」の受け入れ要請もあっている等、協力関係が伺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で理解を深めたり、事故報告書やひやり・ハットでは拘束をしない対策を講じている。玄関の施錠は防犯上、夜間のみ使用している。	「認知症実践者研修」で学んだ事を、全職員に「内部研修」で伝え、周知徹底に努めている。研修前と研修後の職員アンケートでは改善がみられており、実践の場で「ちょっと待つて」等の言葉が減った事が確認出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会で虐待について理解を深めている。虐待の新聞記事があると掲示したり定例会で職員全員で意見を言い合い、考えているようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にご入居者様の中に後見人を活用されている方がおられる為、職員一丸となって理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は内容を読みながら理解して頂くよう説明を行い、同意を得た上で署名・捺印を頂いている。その際に、不安や疑問点があれば説明を行い解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご入居者様や面会時にご家族様より要望や意見を聞くように努めている。又、ご意見箱を設置したり、家族会や運営推進会議でご意見やご要望を聞かせて頂き運営に反映している。	家族の面会は多く、笑顔でのお迎え・お見送りを心掛けるとともに、利用者の日頃の様子を伝え、家族の思いを聞いて信頼関係を築く努力をしている。又、毎月の請求書送付時に、担当職員が利用者の日常等を記載したお便りを添えて、家族の安心を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や各種会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映している。	年間計画一覧表があり、職員は年間の行事その他、施設運営の内容を把握している。消防・事故対策・会計・買い物・食事等、細かな各種委員会を設置し、役割分担が決められており、日々の業務に努めている。月一回の「定例会」では、職員が思いをため込まず、会議の場で自分の意見を述べる雰囲気の中で、情報交換し利用者に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格や能力に応じて給与を支給している。又、職員の技能や得意分野に応じて委員会や係りを割り当てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会ではテーマに沿った資料の準備から講義を各担当で行い、レベルアップに努めている。又、初任者研修や介護福祉士、介護支援専門員の資格取得ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	去年の3月には歯科衛生士を招き口腔ケアについての勉強会を開催したり、今年3月には、外部より同業者の講師による勉強会を開催の予定である。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とよくコミュニケーションを図り、困っていることや不安なことがないか傾聴し、本人様より安心される関係が作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困りごと、不安なこと、ご要望を良く聞いてご家族様との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様にとって今何が必要か、しっかりと話し合い支援している。又、他のサービスがあればその都度、検討し最善のケアに当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、洗濯物干しやたたみをしたり、掃除をしたり、話の聞き上手なご入居者様に相談を持ちかけたりと共に支えあい過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をお伝えし、一緒にご本人様を支え合う関係を築き、互いに喜びを分かちあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ユニットを越え、馴染みの方や親族の方がおられるので、会いに行かれたり、馴染みの理容店に出向いたり、年に1回は故郷巡りができるように支援している。	家族以外に馴染みの人の訪問は少ないが、馴染みの公園に出かけたり、買い物先のスーパー等での知人との出会いを大切にしている。又、行きつけの理美容に出向いたり、訪問して貰い、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の会話を大切に、互いにより関係となるように支援している。この性格等を考慮しリビングやダイニングの席替えも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて退居されたご入居者様に面会したり、又元ご入居者様のご家族様よりホームに来られよりよい関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に希望や意向をお伺いし、ケアプランやケアにつなげている。困難な方には、昔の暮らしや性格を汲み取りその方によりよい暮らしとなるように支援している。	個別ケアの充実を目指して、日常の暮らしの中でできる事・したい事等を細かに聞き取った結果、カラオケ・草取り・脳トレ・文字の練習・昔のビデオ鑑賞等、それぞれの意向が把握できた。それに職員が、積極的に関わる事で会話も増え、利用者の活動的な楽しい暮らしに繋げている事が伺えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にこれまでの生活をお伺いし把握に努めている。これまでの生活スタイルを出来るだけ希望を添えられるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様やご家族様、主治医、ケアマネから情報収集し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議で、課題やケアについて話し合いをし、介護計画を作成し、それに基づいたケアを実施して改善点を出し合い更に現状に即した介護計画を作成している。	1か月毎に、全利用者のしたい事・して貰いたい事等を具体的に表現し、一覧表にして毎日チェックしている。家族には、面会時や電話・手紙等で利用者の様子を伝え、要望を聞いている。3か月に一度モニタリングとアセスメントを行い、半年ごとに介護計画の見直しを行っており、利用者・家族の意向を反映した現状に即した計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日々の申し送り、棟会議で情報共有を図り実践や介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時折に発生するニーズに対して、柔軟な支援を行っている。例えば、ご入居されていた方が、ご家族の支援もあり退居されるが、継続して同じ環境で支援が受けられるよう同法人の通所介護につなげ取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買物や保育園との交流、教会からのお茶摘みやクリスマス会の招待による交流があり、地域資源を活用して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様より希望の受診がある際は、かかりつけ医へ報告し診察が受けられるように支援している。又、他科受診の希望の際も紹介状を持って専門医への受診も行っている。	全利用者が、母体医院をかかりつけ医としている。月2回の往診で、主治医は利用者の健康状態や精神状態を把握しており、受診にも職員が付き添い、家族の負担軽減と医療面の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に情報のやり取りを行い、情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報提供し、安心して入院できるよう支援している。又、職員も見舞いに行き状態把握に努め、病院関係者と連携し退院がスムーズに出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明している。又、そのような状態の時は、密にご家族様、医療関係者と話し合いを設けチームで支援できるように取り組んでいる。	入居時に、看取りを行う方針である事を説明し、同意書を取り交わしている。終末期が近づいたと判断された場合、幾度も職員間で話し合いを持ち、家族・医師の意見も合わせて情報の共有を心掛けている。看取り後は全職員で振り返りを行い、最後まで悔いの無い看取りが出来るよう話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、適切な行動が出来るよう勉強会や定例会で話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の対応について勉強会を開催したり、年に2回の消防署立会いの避難訓練を行い、地域の方に来て頂き協力体制を築いている。	年間計画に沿って、6月と10月の年2回、消防署立ち合いの元、避難訓練を行っている。運営推進会議でも消防・防災をテーマとして取り上げて話し合い、地域住民の協力体制も整えられている。また、食料品・水の他に酸素・電池・濡れティッシュ・おむつ等の備蓄を充実させ、災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには些細に注意している。言葉遣いについては勉強会で話し合っている。	「もし、自分だったら」という意識に裏打ちされた言動を心掛けている。特に言葉遣いは重要で、上から目線の声掛けや、行動抑制でプライバシーを損ねないよう定例会でも話し合いを持ち、職員全員で確認合っている。	自分では意識した声かけをしているつもりでも、気付かない場合もあると思われる。職員同志で注意し合う環境づくりにも期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択がある時は必ず選んで頂き、自己決定が出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	棟会議やその都度、職員と話し合いを行い、入居者様の思いが優先されているか確認支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に行い身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。服の着こなしもご本人様の好みに合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園をされている入居者さんより、季節の野菜や漬物を提供したり、野菜の下ごしらえや片付けが出来るように支援している。	調理職員が2人いて、両棟同じメニューの食事が提供されている。職員も同じテーブルで同じ物を食べ、個々の利用者の食の進み具合や呑み込みの様子が確認できており、野菜の切り方・柔らかさ・盛り付けの量等を工夫している。外食の機会は少ないが、誕生会を兼ねたレストランでの食事会では、利用者の笑顔が見られた。又、家族と一緒に外食も支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材で硬いものが食べれない方には、刻み食等にして栄養が摂れる様に支援している。養命酒の習慣がある方は、一定量で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔状態に応じて訪問歯科診療を受け口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個人に応じたトイレへの声かけや誘導を行い、失敗を減らすように努めている。	両棟とも、排泄の自立度の高い人が多く、ほとんどがリハビリパンツで対応出来ている。尿量が多い利用者については、家族の了承を得て夜間は大きいパットに変えて、負担の軽減に繋げている。99歳のおむつ利用の人の仕草や気配を察知して、トイレ誘導を続けた結果、リハビリパンツ対応になった事は、職員の根気強いケアの賜物だと思われる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ゆっくりとトイレが済まされるように急かさず、体動がある方でもトイレの外で見守りを行い、プライバシーに配慮している。又、体操や水分補給、マッサージを行ったり、必要に応じて下剤を調整し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、気持ちよく入浴して頂く為に、ご入居者様のペースに合わせて支援している。入湯が困難な方には、シャワー浴を行っている。	毎週、月曜と木曜日が入浴日。施設内温泉は利用者に好評で、入浴拒否は見られない。入居前、温泉入浴だった利用者は、入居後も温泉に入る事ができて、家族にも喜ばれている。数人一緒の入浴を職員3人体制で対応しているが、ほとんどの人が自立しており、温泉で気持ちの良い入浴を楽しむ支援が伺えた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じて休息支援を行っている。又、気持ちよく休んで頂ける様に、照明や定期的なシーツ交換、室温湿度に注意したり、季節に応じて寝具調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事書にて理解を深めている。内服変更時は申し送り様子観察を行い、変化があれば主治医に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の継続や草取り、買物、マッサージ等での役割、コーヒーやヨーグルト、養命酒の嗜好品やカラオケ、書道等の趣味活動を継続し気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物支援や家族支援による外出、行事での外出、近所の公園の散歩、文化祭や音楽会の参加等、社会資源を活用して気分転換が図れるように支援している。	併設の医院受診の際も外出支援と捉え、季節の移り変わりや外気浴を楽しんでいる。週2回、買い物の日を設けて希望者を募って買い物に出たり、近くの公園で散歩するなど、気分転換を図っている。地震以降、「復興コンサート」と称する様々なイベントの情報を入手し、可能な限り、利用者と共に出かける事で、職員もリフレッシュしている。又、個別にグランドゴルフや、自宅の家庭菜園に通う利用者もあり、閉じこもらない外出支援が出来ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所に預かっているが、欲しい物の希望があれば使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおられ、自ら電話をされている。又、事業所に御家族様から電話があった際には電話を代わって支援している。又、ご家族様などから手紙が届いた際には、やり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、居心地よく過ごして頂ける様に室温湿度に注意したり、生活感を感じてもらえるように時に珍しい野菜を見て頂いたりして空間作りを行っている。	民家風の玄関を入ると、正面にオープン事務室があり、来訪者を出迎えてくれる。壁には利用者の手作り大判パッチワーク作品が展示されている。事務室を中心に左右に分かれたはぎ棟とあせび棟から職員と利用者の活気ある話し声が聞こえ、明るい雰囲気。はぎ棟は天井が高く、太い梁が組み込まれていて開放感がある。両棟とも、台所・リビングにゆとりがあり、利用者は自分の居心地のいい場所でくつろぐ姿が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のいろんな箇所に椅子を設置し、一人になれる場所作りや気の合ったご入居者様同士で過ごせるようにソファを設置したりし居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持ち込みして頂き、写真や手紙等を飾って居心地の良い環境作りを行っている。	ベッド以外は、全てその人が自分の部屋として落ち着いて過ごせるように、暮らしに必要な生活用品が持ち込まれ整えられている。小机・鏡台・テレビ・整理ダンス等、家族の思いが込められた居室作りが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室に名前を書いて分かるように支援している。台所に位置やリビングの位置、居室への往来が見渡せて誰がどこにおられるかを把握し自由かつ安全に行動ができるような環境作りを工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701039		
法人名	医療法人社団 問端会		
事業所名	グループホームといはた はぎ棟		
所在地	熊本県阿蘇市内牧117番地		
自己評価作成日	平成29年9月27日	評価結果市町村受理日	平成29年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成29年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

震災後の入居者様より「今まで入っていた温泉に又入りたい」という声が多く聞かれ、再度温泉を引きかけ流しにて入浴を提供している。毎月、季節折々の行事を計画している。時に地域へ出向き支援している。余暇ではゴルフや縫い物など趣味を楽しめるように支援している。毎月、御家族宛に手紙をお送りしホームでの生活状況や個別ケアの状況、行事の状況など記載し情報提供を行っている。又、面会時にも近況をお伝えしている。主治医との連携を行い、健康面や医療面において不安なく安心した生活を提供している。職員は毎月、ホーム内勉強会や外部の研修会に参加しスキルアップを図っている。又、今年より職員の考査を行っておりスキルアップ、質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも理念が見れるように、各箇所毎に理念を掲示しており、理念を思い出し業務にあたることで実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の茶摘やクリスマス会、校区の運動会や夏祭りなどに参加したり、入居者様と買物へ出かけたりし交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会、中学生の職場体験や高校生の福祉実習の際に話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事活動報告やテーマを決めて意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	細かな事でも市担当者と連絡を密に取りあい、事業所の実情を伝え情報共有を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で理解を深めたり、事故報告書やひやり・ハットでは拘束をしない対策を講じている。玄関の施錠は防犯上、夜間のみ使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会で虐待について理解を深めている。虐待の新聞記事があると掲示したり定例会で職員全員で意見を言い合い、考えているようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	もう一つのユニットで、実際にご入居者様の中に後見人を活用されている方がおられる為、職員一丸となって理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は内容を読みながら理解して頂くよう説明を行い、同意を得た上で署名・捺印を頂いている。その際に、不安や疑問点があれば説明を行い解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご入居者様や面会時にご家族様より要望や意見を聞くように努めている。又、ご意見箱を設置したり、家族会や運営推進会議でご意見やご要望を聞かせて頂き運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や各種会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格や能力に応じて給与を支給している。又、職員の技能や得意分野に応じて委員会や係りを割り当てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会ではテーマに沿った資料の準備から講義を各担当で行い、レベルアップに努めている。又、初任者研修や介護福祉士、介護支援専門員の資格取得ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	去年の3月には歯科衛生士を招き口腔ケアについての勉強会を開催したり、今年3月には、外部より同業者の講師による勉強会を開催の予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とよくコミュニケーションを図り、困っていることや不安なことがないか傾聴し、本人様より安心される関係が作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困りごと、不安なこと、ご要望を良く聞いてご家族様との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様にとって今何が必要か、しっかりと話し合い支援している。又、他のサービスがあればその都度、検討し最善のケアに当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、洗濯物干しやたたみをしたり、掃除をしたり、話の聞き上手なご入居者様に相談を持ちかけたりと共に支えあい過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をお伝えし、一緒にご本人様を支え合う関係を築き、互いに喜びを分かちあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ユニットを越え、馴染みの方や親族の方がおられるので、会いに行かれたり、馴染みの理容店に出向いたり、年に1回は故郷巡りができるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の会話を大切にして、互いによい関係となるように支援している。この性格等を考慮しリビングやダイニングの席替えも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて退居されたご入居者様に面会したり、又元ご入居者様のご家族様よりホームに来られよりよい関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に希望や意向をお伺いし、ケアプランやケアにつなげている。困難な方には、昔の暮らしや性格を汲み取りその方によりよい暮らしとなるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にこれまでの生活をお伺いし把握に努めている。これまでの生活スタイルを出来るだけ希望を添えられるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様やご家族様、主治医、ケアマネから情報収集し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議で、課題やケアについて話し合いをし、介護計画を作成し、それに基づいたケアを実施して改善点を出し合い更に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日々の申し送り、棟会議で情報共有を図り実践や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時折に発生するニーズに対して、柔軟な支援を行っている。例えば、ご入居されていた方が、ご家族の支援もあり退居されるが、継続して同じ環境で支援が受けられるよう同法人の通所介護につなげ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買物や保育園との交流、教会からのお茶摘みやクリスマス会の招待による交流があり、地域資源を活用して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様より希望の受診がある際は、かかりつけ医へ報告し診察が受けられるように支援している。又、他科受診の希望の際も紹介状を持って専門医への受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に情報のやり取りを行い、情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報提供し、安心して入院できるよう支援している。又、職員も見舞いに行き状態把握に努め、病院関係者と連携し退院がスムーズに出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明している。又、そのような状態の時は、密にご家族様、医療関係者と話し合いを設けチームで支援できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、適切な行動が出来るよう勉強会や定例会で話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の対応について勉強会を開催したり、年に2回の消防署立会いの避難訓練を行い、地域の方に来て頂き協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには些細に注意している。言葉遣いについては勉強会で話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択がある時は必ず選んで頂き、自己決定が出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	棟会議やその都度、職員と話し合いを行い、入居者様の思いが優先されているか確認し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に行い身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。服の着こなしもご本人様の好みに合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや片付けが出来るように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材で硬いものが食べれない方には、刻み食等にして栄養が摂れる様に支援している。養命酒の習慣がある方は、一定量で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔状態に応じて訪問歯科診療を受け口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個人に応じたトイレへの声かけや誘導を行い、失敗を減らすように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個人に応じた予防に取り組んでいる	ゆっくりとトイレが済まされるように急かさず、体動がある方でもトイレの外で見守りを行い、プライバシーに配慮している。又、体操や水分補給、マッサージを行ったり、必要に応じて下剤を調整したり個人に応じヨーグルトにて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個人にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、気持ちよく入浴して頂く為に、ご入居者様のペースに合わせて支援している。入湯が困難な方には、シャワー浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じて休息支援を行っている。又、気持ちよく休んで頂ける様に、照明や定期的なシーツ交換、室温湿度に注意したり、季節に応じて寝具調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事書にて理解を深めている。内服変更時は申し送り様子観察を行い、変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の継続や草取り、買物、マッサージ等での役割、コーヒーやヨーグルト、養命酒の嗜好品やカラオケ、書道等の趣味活動を継続し気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物支援や家族支援による外出、行事での外出、近所の公園の散歩、文化祭や音楽会の参加等、社会資源を活用して気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所に預かっているが、欲しい物の希望があれば使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおられ、目ら電話をされている。又、事業所に御家族様から電話があった際には電話を代わって支援している。又、ご家族様などから手紙が届いた際には、やり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、居心地よく過ごして頂ける様に室温湿度に注意したり、生活感を感じてもらえるように時に珍しい野菜を見て頂いたりして空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のいろんな箇所に椅子を設置し、一人になられる場所作りや気の合ったご入居者様同士で過ごせるようにソファを設置したりし居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持ち込みして頂き、写真や手紙等を飾って居心地の良い環境作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室に名前を書いて分かるように支援している。台所に位置やリビングの位置、居室への往来が見渡せて誰がどこにおられるかを把握し自由かつ安全に行動ができるような環境作りを工夫している。		